の有力な財源となつたのであるが今此の不意討に非常の大打撃を被つて町當局は善後策に窮して居るが失職者に對しては相當斡旋の計畫を廻らして居る尚東京府市の社會課では失職者救濟のために大奔走中で既に六七百名の目鼻はつく事になつた又淺野造船所の

將來は主力 を神奈川船渠に注ぎ二萬噸級の乾船渠と一萬噸級の乾船渠は來る八九月頃竣工と同時に開業すべく造船事業は現在造船臺にある東洋汽船の鑿洋丸（九千噸）洋丸（五千噸）の工事は暫く中止し今後は芝浦製作所及び石川島造船所に合併營業の筈である

淺野造船が大英斷の魂膽

一箇月後に又開業か

悲慘な不具職工の陳情

殆ど閉鎖に近い大縮小をした淺野造船は最初五百人の馘首者を出して作業を繼續する筈であつたが、いざ馘首となつて割當られた解雇人員を出されないと製罐工場で主張した爲各工場共、此の例に倣ひ遂に

八十人 を一週間前に解雇したに過ぎなかつたので、專斷社長は氣を焦つて『では一時閉鎖する迄だ』と、遂に今回の大縮小となつたので、此際社員二百名をも馘首して、改めて去る十六日歐米視察の途から歸朝した日向技師を技師長に推して約一箇月後に工場を開く方針であるらしい、今度の大英斷に就て分けても悲慘なのは作業中に受けた負傷から不具者になつた者百餘名で或は指を或は隻脚を或は片眼を失つた者など以前の關係から會社でも適當の作業を與へてゐたが今度は

健康者 と何等異る事なく馘首されるので、今後は不具者を雇入れて呉れる所がなく路頭に迷ふの外なき狀態なので武藤某外五名は二十九日午前中野造船課長に面接し手當の增加を嘆願した結果各不具職工に此旨を傳へ三十日百餘名連署嘆願書を安藤取締役に提出する事となつた

縣社會課で職工の世話

紹介所へ交渉

右の馘首職工千八百名に對し神奈川縣社會課では二十八日古澤谷の兩縣屬を派し一方東京市內の職業紹介所へ電話で職工就職口を依頼した所市內の各方面で約八百名の求人があるので、二十九日朝來谷縣屬は松本橫濱中央紹介所長と共に急遽上京して求人側の職工の種類其他就職希望を調べた上就職の斡旋をすることになつた又浦賀方面でも百名位の求人があつて斡旋中（橫濱電話）

遠州機業は不況のどん底

五六の二箇月全部休業

工女は旅費をやつて歸鄉さす

遠州 機業界は愈よ不況のドン底に陷り、當業者は先約物のみを製造する有樣である、先年財界動搖當時、操業中止が流行つたのが比較的有利だつた經驗から、全國各地に先んじて休業を斷行すべく

北部 同盟會は二箇月の同盟休業を決議したが、南方同盟會及び白織物同盟會も、廿九日幹部協議會を開き、北部同盟會の幹部に出席を求めて、遠州一帶の機業家擧つて二箇月の休業を爲す事を

決議 した、濱松署の深澤工場監督官補は語る『北部同盟會は休業を決議したものゝ、殆ど任意の有樣で、生產調節には全部休業を必要として廿九日組合員の幹部會を開き

五六 二箇月の休業を決議したので、夏物生產は二箇月位で消化することが出來るから、再び開業が出來てうと思ふ、工女は大部分旅費を與へて歸鄉せしめる』尙に農商省高橋事務官は織物調査の爲め廿九日來濱、會議に臨み事情を聽いて其不況に驚いてゐた（濱松電話）

結局泣寢入りか

淺野の職工連意氣頗る消沈

町通りまで妙に淋しく

廿八日突如として千六百餘名を馘首し斷然大縮少を決行した淺野造船所問題は引續き昨日もわやわや騷いでゐたが

◇**工友會** 以外には何等纏まつた組織的機關を持たぬ連中ばかりなので話も區々で只友人宅に四五人集まり不平を叫んだりする位が關の山だ、午前中協調會から誰か人が來て第三者として調停の任に當るべく活動を初めたといふ風聞も起つたがそれに耳を傾ける者もなく時折四人五人と會社へ

◇**嘆願に** 來ては重役に願書を出してから交渉してと言はれ其の儘銓方なく引き退つて行く、中に一時頃不具者百人ばかりの代表と稱して扶助料をもつと呉れねば小使にも足らぬと泣言を言つて來たものもあつたが是も前同樣の解答に楯つく勇氣も出ずに泣き寢入りとなつた、そんな譯で潮見橋を渡つた先潮田の一帶の町通りも何となく意氣銷沈して職工の姿も見ぬ

◇**約一万** に垂とする商人連が青息吐息で何とかせねばと焦つてゐる位のもの、洋食屋ら煙草屋も欠を嚙み殺しながら通行の人を見送つてゐた、併し事實上困るのは附近に家を持たぬ職工連で多くは好況時代に呼び寄せられた

◇**關西者** だけに幾分手當は貰つても土產と旅費で失つて了ふことほしてゐるが是も矢張り會社に嚴談する程の事はない從つて此の分で行けば案外平穩に泣き寢入りとなつてしまひさうな形勢だが問題は何うしても五日八日の支拂日で此の日には職工全部が集まる爲め思はぬ紛擾を惹起するかも知れぬ

造船職工問題

憂ふべき現象

造船職工の失業問題は軍縮以後重大なる當面問題の一つになつたが近くは淺野造船會社の殆ど閉鎖に等しき窮狀が暴露せられたので一層切實なものとなつた之れに對し遞信當局は『成程大正八年の如きは造船職工は約十萬を數へたものが現在に於ては約六萬五千となつたのであるから夫以後三萬四五千の失業職工を生じたのは事實であるこれは造船界よりの失業であつて決して社會的失業と認めることは出來ない即ち轉業問題によつて生活を維持する從つて直に救濟方策を講じなければならぬといふものでもない併しながら之を國家的見地から見る時には實に容易ならぬことで若し熟練職工を永久に失ふ樣なことがあつては造船界の損失之より基づしきよな、[illegible]